

CAEP Steering Group Meeting 2018 に 参加して

1. はじめに

2018年6月4日から8日までの5日間、シンガポールにてCAEP（Committee on Aviation Environmental Protection：航空環境保全委員会）Steering Group（以下 SG）Meetingが開催された。日本航空宇宙工業会（SJAC）からICCAIA（International Coordinating Council of Aerospace Industries Associations）の一員として参加した。

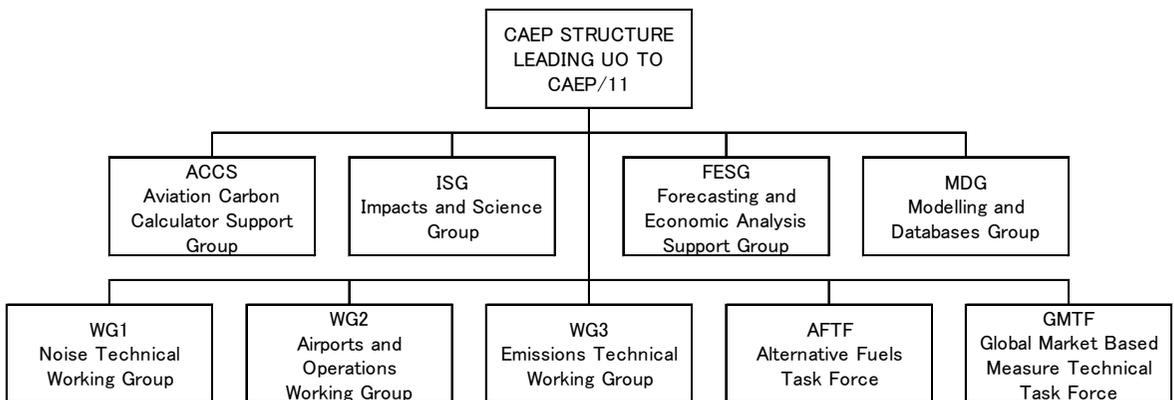
CAEPはICAO理事会の技術的な委員会で、1983年に、Committee on Aircraft NoiseおよびCommittee on Aircraft Engine Emissionsを統合して設立され、航空機の騒音、排出物および、広く航空が環境に与える影響に関する、新し

い方針の策定、基準の採択に関し、ICAOの理事会を支援する委員会である。

CAEPは、ICAO総会の開催サイクルに合わせ3年ごとに本会議が開催され、SG Meetingは年1回開催される。前回の本会議（CAEP/10）は2016年2月に開催され、今回は2016年12月、2017年9月に続き本会議後3回目のSG Meetingであり、来年計画されている次回の本会議（CAEP/11）前最後のSG Meetingであった。

CAEPの組織の概要

CAEPには日本を含む24か国の政府のメンバーおよび、7か国の政府とICCAIAを含む10団体がオブザーバーとして参加している。



ICAO CAEP の組織



写真1 会場となったSands Expo and Convention Center



写真2 議事の様子

SG Meetingには100名以上が参加し、ICCAIAメンバーとしてSJACからは2名（会員企業：1、事務局：1名）が参加した。なお、日本からは国土交通省 航空局 安全部所属のCAEP委員、および同局総務課 地球環境保全調査官の2名をはじめ、JAL、ANAから各1名が参加した。

今回の議長は開催国であるシンガポールから選出され、会議は事前に提出されていた76件のWorking Paper (WP) に沿って進められた。

2. 議事内容

(1) Engine Emission関連

超音速機のEngineからのEmissionに関する規制として、ICAO Annex 16, Volume II Chapter 3があるが、コンコルドに装備されていたEngine (Olympus) の時代に設定された規制である。亜音速機に装備されるEngineに対する規制は、時代の流れと共に度重なる改訂が行われてきたが、超音速機に係る規制は改訂されていない。

米国のAERION社、BOOM社を始め、米国内の企業を中心に超音速機開発が進められており、亜音速機に適用される規制と同様に、

超音速機に適用される規制に関しても時代に即した改訂の必要性は認識されている。超音速機への装備を想定して開発が進められるEngineに対する規制として、現時点で有効な規制（Chapter 3）の適用可否、改訂する際の改訂方法など、多くの検討課題が残されていることが確認された。

(2) 騒音関連

騒音規制に関しICAOは、Balanced Approachとして、Reduction of noise at Source、Land-Use Planning and Management、Noise Abatement Operation ProceduresおよびOperating Restrictionsの4つの観点から検討を行うとしている。CAEP/11のサイクル（2016-2019）にて注力する点として、機体レベルでの騒音と排出物を統合した評価があげられているが、前述の通り、超音速機のEngine Emissionに対する規制策定に関して多くの課題があるのと同様に、騒音に関しても、巡航中のSonic Boom、離着陸時の空港周辺へ騒音に関連した規制策定に、多くの課題が残されている。

(3) CO2排出に関するGlobal Market Based Measure Technicalについて

CORSIA (Carbon Offset and Reduction

Scheme for International Aviation) に関連し ICAOでは、これまでに制度化に向けた規定類の策定、また、各国当局、航空機運航者での取り組み内容に係るセミナーの開催や ICAOホームページへの知識付与教材の掲示など、様々な取り組みが進められている。

今回のSG Meetingは、CORSIAによる取り組みが開始される2019年1月まで最後のSG Meetingであった。現在、CORSIA CO2 ESTIMATION & REPORTING TOOL (CERT) がICAOにより作成されつつあり、これは、機体のタイプ、離発着空港を入力するだけで、航空機運航者が簡便にCO2排出量を算出できるTOOLであり、無償でホームページからダウンロードする方法にて提供される予定である。

3. 所感

3年毎に開催される本会議 (CAEP/11) に向けた最後のSG Meetingであったからと思われるが、昨年9月に開催されたSG Meetingから8か月余りであったが、多くの項目で本会議での審議に向けた議論の進展がみられた。

昨年のSG同様、超音速機に対する規制に関連した項目では、多くの意見が述べられ、課題も多いと感じた。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 技術部部长 佐々木 義治〕



この事業は、オートレースの
補助を受けて実施したものです。
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp>